



Advanced Science, Technology & Management Research Institute of KYOTO

# ASTEM NEWS

86  
Mar. 2024

## 京都市成長産業 創造センター 10周年記念 フォーラム開催

大学、企業との橋渡しにより  
次代の産業を創造する  
ACT京都の10年、そしてこれから

### CONTENTS

P.02~04

特集 京都市成長産業創造センター(ACT京都)  
10周年記念フォーラム開催

P.05

京都市成長産業創造センター  
ACT京都 MEMBERS

P.06 ~ 09

事業活動報告

京都リレーションシップ2023

オンリーワン技術・ノウハウをもつ中小企業の  
海外進出をサポート

輸送機器・移動体のサイバーセキュリティセミナー

P.10 ~ 15

京都市ベンチャー企業目利き委員会  
Aランク認定企業のご紹介

オスカー認定企業のご紹介

これからの1000年を紡ぐ企業認定  
認定企業のご紹介





特集

京都市成長産業創造センター（ACT京都）  
10周年記念フォーラム開催

大学、企業との橋渡しにより次代の産業を創造する

# ACT京都の10年、そしてこれから

京都市成長産業創造センター（ACT京都）は、産学公の連携のもと、大学の研究シーズを中小企業等に橋渡しすることで、産業競争力の向上と新規事業の創出を図ることを目的に、2013（平成25）年11月に開設しました。

2023（令和5）年11月7日、開設10周年を記念し、「これまでの10年、これからの10年」を語り合う記念フォーラムを開催しました。

主催者を代表し、京都市長の門川大作氏が開会のあいさつを述べた後、来賓を代表して経済産業省近畿経済産業局 地域経済部長の黒田俊久氏、京都市会副議長の平山よしかず氏からごあいさつをいただきました。門川市長は、ACT京都設立までの苦労を振り返るとともに、「今ではこの拠点が、スタートアップ企業や起業家の育成を促進し、あらゆる社会課題の解決に貢献していることを嬉しく思います。京都市も、都市計画の見直しを含め、スタートアップ支援の取組を京都全体に広げべく、成長戦略を進めています」と未来への構想を語りました。また黒田部長からは「ここで育まれた最先端のナノテクノロジー、バイオテ



クノロジーをもとに多くの社会実装が実現することを期待しています」、平山副議長からは「京都が誇るものづくり産業を支えるACT京都の役割は、ますます重要になっていきます。10年先、100年先の未来に新たな価値を創造する拠点として、さらなる発展を遂げてほしい」と期待の言葉をいただきました。

記念講演として、関西イノベーションイニシアティブ 総括エリアコーディネーターの村尾和俊氏にご講演いただいた後、平尾一之ACT京都センター長が10年間の成果を報告しました。その後、ACT京都入居企業13社によるプレゼンテーションのほか、アドファーマ株式会社、イーセップ株式会社、株式会社イクスフォレストセラピューティクスが参加してのパネルディスカッションを行いました。



## ACT京都 10年間の歩みと成果

ACT京都 センター長  
京都大学名誉教授

平尾 一之



ACT京都は、開所以来、産学公オール京都で、多くのスタートアップ企業を支援してきました。「化学・材料分野」において大学等研究機関が持つ技術の企業への橋渡しなど、一つ屋根の下で産業創造を支援しています。この間、入居者支援や地域産業活性化、産学公拠点形成、無事故・無災害運営管理といった活動に取り組んできました。まず入居者支援については、すべての入居者と面談を行って課題や要望を聞き、事業化や販路開拓、マッチング、開発資金の調達などを支援してきました。またランチタイム交流会などを実施し、入居者同士が連携する機運も醸成しています。地域産業活性化では、地域のものづくり企業との交流や京都グリーンケミカル・ネットワークとの連携を推進。産学公拠点形成では、京大桂ベンチャープラザと入居者交流を行ったり、地

域の大学や近畿経済産業局、独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿本部、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）などの国の機関、京都府、公益財団法人京都産業21、地方独立行政法人京都市産業技術研究所などとの連携拠点として役割を果たしてきました。こうした取組の結果、現在ACT京都のレンタルラボは満室で、多くの入居企業が事業化に成功し、様々な製品を上市しています。入居企業の売上高は、直近の5年間で1.3倍、経常利益は75.9倍にまで成長。補助金の獲得額は当初の約2000万円からコロナ前は8億7500万円、2022（令和4）年度は3億6000万円にまで回復しています。

今後10年に向け、最も必要なのがネットワーク形成だと考えています。そのために、京都市内の他拠点との連携を図っていきます。加えて重要なのが、海外への情報発信です。海外市場の情報収集・提供を行い、ACT京都が海外展開の懸け橋になりたいと考えています。京都市では「らくなん進都」「東高瀬川ビジネスパーク」などの構想が進んでいます。その中であってACT京都は、産学公が集い、交流し、エンカレッジする役割を果たすとともに、持続的イノベーションで従来製品に新たな価値を創っていく。この両輪で進んでいきたいと考えています。



## 記念講演

# 大学、産業界との橋渡しによるイノベーションの創出

関西イノベーションイニシアティブ  
総括エリアコーディネーター

村尾 和俊 氏



大学発シーズをスタートアップに結びつけ  
オール関西でゼブラ企業の創出を目指す

関西イノベーションイニシアティブ (KSII) は、大学発の技術シーズをオール関西でスタートアップに結びつけ、大学発スタートアップ・エコシステムの形成を目指す組織です。2020 (令和2) 年9月、経済産業省の「産学融合先導モデル拠点創出プログラム (J-NEXUS)」に採択され、関西の大学、自治体・経済団体・金融機関など、産官学金が集結し、オール関西で取り組んでいます。現在、京阪神地区の大学・支援機関など、88機関に参画していただいています。

KSIIの目的は、特徴ある大学の多彩な技術シーズを起点に、産業界の人・モノ・金を投入し、ゼブラ企業を創出することにあります。2024 (令和6) 年度までの5年間で、10社のゼブラ企業の創出を目標に掲げています。「ゼブラ企業」とは、「SDGsに関わるような地域の社会課題の解決に貢献」し、かつ「一定の事業規模と継続的な成長」という目標を両方実現する企業と定義づけています。そのためにスタートアップ企業の立ち上げから独り立ちまで、特に重要な時期であるアーリーからミドルステージを重点的に伴走支援しています。経済産業省の補助事業が終わった後も継続させるため、この取組を自立化・自走化し、関西を拠点とした自律的・持続的なスタートアップ・エコシステムの構築を念頭に置いて戦略を立案、実践しています。

企業とのマッチングや社会実装を後押しする  
イベント・取組を実施

KSIIの取組事例をいくつか紹介します。一つは、2023 (令和5) 年11月に開催した「第3回Challenge万博『いのち輝く未来社会へ』」です。金融機関から力強い支援をいただいて、関西の大学発スタートアップ・シーズと企業とをマッチングし、産官学共創を促進しようというイベントです。大学発の技術シーズの紹介やマッチングセミナー、相談会を実施しました。

次に2021 (令和3) 年度から大阪商工会議所と連携して開催しているのが、「U-START UP KANSAI」というオープンピッチコンテストです。3回目を迎えた今年も、全国から多くの応募が

ありました。受賞者には副賞として、アメリカで開催される世界最大級のテック系展示会「CES」への出展権や大阪・関西万博への出展権を授与しています。

また大企業とスタートアップ企業とのマッチング促進にも力を注いでいます。その一つが、2023 (令和5) 年10月に開催された日本最大のテック系展示会「CEATEC2023」への出展です。KSIIと大学発スタートアップが共にブース出展を行い、多くの企業とのマッチングを促進しています。今回出展した京都大学発のメトロウエザー株式会社は、「CEATEC AWARD2023」のスタートアップ部門でグランプリを受賞されました。

京都地区やASTEMと連携し、大学の研究シーズの社会実装を支援する活動も行っています。2021 (令和3) 年12月に開催した「『未来のビジネスを考える!』～社会課題×Technology×Business～」では、京都市とASTEMによる次世代産業×大学発ベンチャー社会課題解決のための技術開発プロジェクトの成果を発表いただき、2023 (令和5) 年12月には、ASTEMとKSIIの主催で「レジリエントな社会を考えるシンポジウム～防災・減災の今を知る!～」の開催を予定しています。

さらに2023 (令和5) 年度、京都地区の金融機関・支援機関と連携し、スタートアップ支援の新しい取組「Kyoto X (cross)」をスタートさせました。京都府・京都市・金融機関・支援機関が一堂に会し、オール京都で大学発スタートアップの事業化に向け、支援を行います。セミクローズドな場で、具体的な議論や助言を行うことが特徴です。今後も継続・拡大していく予定です。



ACT京都と深い絆を結び  
共に活力あるスタートアップを育てたい

KSIIがスタートして約3年半、関係者で議論のうえKSIIの「ゼブラ企業」認定基準については、今年度上期に策定しました。つきましては、今年度下期にKSIIが認定するゼブラ企業として複数社を発表予定ですので、その際に「ゼブラ企業」認定基準についても公表させていただく予定です。さらに次世代ゼブラ企業候補の創出は、すでに目標の30社を達成しています。

ACT京都とKSIIは、役割や機能は異なりますが、同じ目的に向かっており私は考えています。この出会いを機に、今後いっそう連携を深めていきたい。例えばACT京都で成長したスタートアップや事業を、KSIIが産業界に橋渡しするなど、社会実装に向けた支援体制を共同で構築できればと思っています。今後、深く絆を結び、オール関西で活力あるスタートアップを育てていきたいと願っています。

# これまでの10年、 これからの10年に向けて



パ ネ リ ス ト	金岡 奈美氏	アドファーマ株式会社 代表取締役社長
	澤村 健一氏	イーセップ株式会社 代表取締役社長
	田尻 健氏	株式会社イクスフォレストセラピューティクス 取締役・最高戦略責任者
	平尾 一之	ACT京都 センター長 (五十音順)
モ テ ー タ	孝本 浩基	ASTEM 地域産業活性化本部長

ACT京都に入居し、大きな成果を挙げておられる3社に登壇いただき、「これまでの10年」「ACT京都に入居して良かったこと」「これからの10年を展望し、ACT京都に期待すること」について語っていただきました。

**金岡** 当社は、経皮吸収技術を用いて基礎化粧品を企画・開発しています。九州大学が持つ特許技術の独占ライセンスを取得。大手薬局と共同開発し、同社のプライベートブランドとして2019（令和元）年に発売した製品は、累計販売数百万本を突破しました。その後も次々と新製品を上市しています。ACT京都に入居して良かったのは、多くの企業や技術の橋渡しをしていただいたことです。大手薬局との初めての面談もACT京都で実施。平尾センター長自ら同席し、商談を後押ししてくださったおかげで、スムーズに製品化が決まりました。経皮吸収技術は、もともと創薬を目的に開発されました。10年後には、薬に近い高機能を持ちながら、化粧品として手軽に使っていただける製品を開発・発売したいと思っています。ほかにはない技術で、多くの方のお役に立つ製品を作っていることを広く発信していきたい。皆様にはその点で、これからもご支援いただきたいと願っています。



**澤村** 当社は2013（平成25）年の創業以来、簡易で省エネ、かつ高効率な分離のための膜分離技術を開発、提供しています。ナノレベルで分離できるセラミック製分離膜の開発に成功し、現在製品化、モジュール化、さらに量産化を進めているところです。将来は、大量のエネルギー消費やCO<sub>2</sub>排出の原因となっている大規模な化学・石油プラントの劇的な省エネや小型化を当社の分離膜技術で可能にし、カーボンニュートラルの実現に貢献することを目指しています。ACT京都の多くの支援の中でもとりわけ大きかったのは、「ネットワーク」です。当社だけでは知り得なかった様々な企業とつながりいただいたことで、事業が大きく加速しました。10年後には、ACT京都に支援していただき、育てた技術を社会実装し、しっかり成果を出したいと考えています。当社がACT京都を卒業した後も、ACT京都を訪れば、連携したい企業が見つかる拠点であってほしいと願っています。



**田尻** 2020（令和2）年5月に創業し、RNAを標的とした医薬品開発プラットフォーム「FOREST」のサービス提供を行っています。独自のアルゴリズムでRNA構造を抽出し、自動でライブラリー化。RNAと化合物の結合度を網羅的かつ高速に解析することで、創薬開発のスピードアップを可能にします。国内大手製薬企業4社にご評価いただき、ライセンス契約付きの共同研究を進めています。ACT京都に入居したのは、創業から2か月後の7月でした。自社のラボもない中で、すぐに実験を始められる環境を提供していただいたことが、非常にありがたかったです。加えて、管理の難しい化合物の合成設備や細胞などの解析設備の導入・使用も受け入れていただいたおかげで、事業の幅が広がっています。現在は自社で新規化合物の開発に取り組んでいます。神経性疾患やがんのような難治性疾患の薬を、RNAを標的とすることで低分子化合物から創出したい。日本だけでなく世界に展開していきます。



**平尾** 「京都グリーンケミカル・ネットワーク」の会長として、また化学系の研究者としても、化学技術領域における製品化の難しさとともに、異業種連携によっていかにそれが加速するかも身を持って知っています。ACT京都は、多種多様な業種の企業が一つ屋根の下に集まっているところが強みの一つです。ACT京都内、さらには京都全域に及ぶネットワークを通じて、企業や技術の橋渡しや連携を後押ししてきたことを嬉しく思います。今後10年に向け、いっそう重要になると考えているのが、海外展開です。現在計画が進んでいる「東高瀬川ビジネスパーク構想」では、海外を含めた多様な企業・機関の協働や交流が掲げられています。ACT京都の入居企業の持つシーズを活かし、産学公連携を推進していただきたい。3社にはグリーンケミカルや医療といった成長分野のトップランナーとして、走り続けていただくことを期待しています。



プラスコート株式会社

<https://plascoat.co.jp/>



プラスコート株式会社  
代表取締役社長  
安田 知穂 氏

他にはない導電性・機能性  
フィルム・コーティングを開発し  
社会のニーズに応える

調合・成膜・塗膜技術を強みに  
導電性・機能性コーティングを事業に

弊社は、1984（昭和59）年に創業以来、プラスチック筐体へのコーティングを主事業としてきました。スプレーコーティングやマスキング処理などの高い塗装技術で、筐体表面を美しく仕上げるだけでなく、各種部品の表面に特殊な塗料を塗布し、撥水性や親水性、耐薬品性、潤滑性など、優れた機能を付与する機能性コーティングも行っています。

現在主軸としているのが、導電塗装です。電子機器などの樹脂筐体の裏側に高導電性のコーティングを施すことで、導電性の被膜をつくり、電磁波を反射。外部からの電磁波の侵入と内部からの放出を遮断し、周囲の機器への干渉、機械性能への影響を防ぎます。特に医療機器や計測機器などの精密機器に広く採用されています。



コーティング事業

豊富な実績の中で蓄積してきた調合や成膜、コーティングの技術とノウハウ・専門知識が当社の強みです。「こんな機能を持った塗料を作りたい」「スクリーン印刷用の導電性ペーストがほしい」など、お客様のニーズに応え、さまざまな原材料を調合・塗料化するほか、独自の成膜技術で、プラスチックに留まらず、多様な素材へのコーティングも可能にしています。

また高度な塗工実験機を保有し、研究開発段階での試作や少量生産にも対応しています。

蓄積してきた知識と研究・開発力を活かし  
自社オリジナル製品を開発

コーティングの受託事業に加えて、新たにクリエイティブ事業として注力しているのが、弊社独自のオリジナル導電製品の開発です。これまでお客様の難しい課題を解決する中で培った調合・塗膜技術を活かし、幅広い分野で使っていただける製品を開発・販売しています。

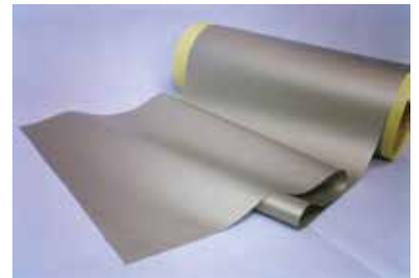
代表的な商品の一つが、楽器用の導電性塗料です。エレキギターをはじめとした電子楽器は、ノイズやその対策により音色が損なわれてしまうという課題があります。弊社は、楽器メーカー

の依頼に応じてエレキギター用塗料を開発した経験をもとに、新たな塗料を製品化。ギター本来の音色は損なわず、アンプにつないだ時に発生するノイズを低減するとともに、ラッカー仕上げの高級ギターにも対応する水溶性カーボン塗料の開発に成功しました。



自社開発のオリジナル製品

また市場をリサーチし、大手メーカーにはない製品として考え出したのが、基材レス導電性フィルムです。PETなどの基材を持た



基材レスのフレキシブルな導電性フィルム

ないため、両面に導電性を付与できることが特長です。しなやかにフレキシブルに形状を変えられることに加えて、伸縮性にも富んでいます。お客様の依頼に応じて、厚みや柔らかさ、粘着層や導電材のカスタマイズにも対応し、好評をいただいています。

その他、軟質塩ビ用や発泡スチロール用、ガラス・PBT用など、さまざまな素材に対応した導電塗料を開発し、ECサイトを通じて販売しています。試作や少量生産用に購入いただいて、弊社の技術を知っていただき、製品化や量産化が決定した後、コーティングも含めて弊社に依頼いただくなど、オリジナル製品の販売が、コーティング事業の新規顧客開拓にもつながっています。

ACT京都の支援を得て産学公連携を進め  
クリエイティブ事業を企業の柱に育てていく

有機溶剤など、化学系材料を扱う弊社にとって、ウェットラボに対応したACT京都は、まさに理想的な研究環境です。各部屋に換気設備なども整い、安心して開発・実験に取り組むことができます。それに加えて入居して良かったのは、情報提供や産学公連携の紹介などのサポートが非常に手厚い点です。弊社の事業や特性を理解した上で、有益な補助金や勉強会などの情報を適宜知らせてもらえるだけでなく、申請まで丁寧な伴走支援を得られます。何より弊社だけでは知り得なかった連携先企業や大学とのマッチングを後押ししてもらえることが、力になっています。現在も新しい連携先と協力し、ウェアラブルセンサ用の導電性フィルムの開発を進めています。

今後も産学公と積極的に連携して新しい製品を開発し、世に送り出していきたいと考えています。今以上に研究・開発力を高めてクリエイティブ事業を成長させ、コーティング事業に並ぶ弊社の事業の柱に育てていくことが目標です。



ラボでの研究・開発



京都の未来を拓くコラボレーション創出へ

## 京都リレーションシップ2023 ～開けてみなはれ大人の知恵袋～

2023（令和5）年10月31日、ウェスティン都ホテル京都において、「京都リレーションシップ2023 ～開けてみなはれ大人の知恵袋～」が開催されました。これは京都オスカークラブ、オスカー YOUTH、京都商工会議所、京都商工会議所青年部、公益財団法人京都高度技術研究所の5機関共同による初の取組です。新たなビジネスの展開や企業連携が生まれる場となることを目指すもので、多様な企業が一堂に会し交流を深めました。

### アフターコロナにおける企業交流のさらなる加速を目指す

まず冒頭挨拶にて発起人の京都オスカークラブ会長である株式会社FUKUDA代表取締役社長の福田喜之氏は、「アフターコロナの企業交流がビジネスに新たな展望と繁栄をもたらすことを期待しています」と語り、京都商工会議所専務理事の兒島宏尚氏からは、開催に至る経緯とともに、「今までにない発想、連携を広げていくことが、京都にとって前に進んでいく力になるのではないかと」の思いが述べられました。



#### － 主催者氏名 －

福田 喜之氏	京都オスカークラブ 会長 株式会社FUKUDA 代表取締役社長
村田 恒夫氏	京都商工会議所 副会頭 株式会社村田製作所 代表取締役会長
西本 清一	公益財団法人京都高度技術研究所 理事長
海蔵 昭成氏	オスカー YOUTH 会長 株式会社寺子屋 取締役副社長
吉田 創一氏	京都商工会議所 青年部 会長 株式会社フラットエージェンシー 代表取締役

### 講演会

## フェンシング協会の改革を通して



国際オリンピック委員会 委員  
国際フェンシング連盟 理事

### 太田 雄貴 氏

私が日本フェンシング協会の会長に就任したのは2017（平成29）年のことです。当時の協会にはミッションやビジョンがなかったので、自分がやりたいことは何なのかを改めて考えました。そして掲げたのが「フェンシングを取り巻く全ての人々に感動体験を提供する」というミッションです。その実現に向けて、「大会の改革」、「人材不足」、「敷居の高さ」、「中央集権」の四つに絞って協会の改革を推進していきました。

人材不足の解消に向けては、予算がない中でも経営戦略などに携わる優秀な人材を確保するため、転職サイトで副業・

兼業限定の公募を行いました。競技団体としては初の試みでしたが、1,127名の方から応募があり、人的リソースの課題を解決することができました。また、フェンシングのハードルを下げるべく、レジャーや体験スポットの検索・予約サイトを運営するベンチャー企業と連携し、気軽にフェンシング体験ができる仕組みを構築。並行して、その振興拠点が東京一極集中にならないよう地方自治体との連携にも力を注ぎました。

大会の改革に関して、忘れられない1枚の写真があります。2013（平成25）年の全日本フェンシング選手権決勝戦のとき、観客席が空席だらけになっていたことです。オリンピックで日本フェンシング史上初の団体銀メダルを獲得した翌年、入場無料、メダリスト対決の好カードにも関わらず、観客が全く集まらなかったのです。会長就任後、ある方からの「認知度を高めてから人気をつくらうとしがちだが、リソースがない場合は逆」との助言をきっかけに、ファンを開拓するところからスタートしました。

会長就任後、最初の大会で取り入れた新しい取組は21にのぼります。競技ごとに行っていた男女6競技の決勝を1日に集約

し、ルールを解説する特設ラジオ局を館内に設置。試合を盛り上げるためにポイント獲得時に床が光るLEDを導入、選手によるサイン会も実施しました。目指したのは、選手の竹まい一つとっても人々を感動させられるフェンシング。準備期間3週間、約1,500名の方に足を運んでいただきました。

次に客単価を上げるため、ブランド戦略に着手しました。ポスター写真は著名なカメラマンに依頼。当時アーリーナ競技のチケットは1,500円ほどでしたが、決勝会場に東京グローブ座を選び6,000円で販売したところ40時間で完売しました。試合も見せ方次第で印象は大きく変わります。照明を工夫し、選手の表情が見えなくても観客が感情移入できるよう、選手・審判の心拍数を表示するという演出もプラスしました。2019（令和元）年にはAI技術を活用し、剣の軌跡を可視化。これも奏功して2日間で3,500人を動員できるまでになりました。

改革を進める上では、新しい取組は手段であり目的ではないというスタンスと、自治体など外部との連携を大事にしています。そして自戒を込めてお伝えしたいのは、周囲との対話の重要性です。物事がうまく運ばない局面は多々ありますが、成功の確率は、コミュニケーションの量に比例するのではないかと考えています。



## ○企業間連携の事例紹介

### 京都発技術の融合による産業用小型静音コンプレッサー開発

第3回知恵-1グランプリ コラボレーション部門 グランプリ受賞

株式会社坂製作所 代表取締役 坂 栄孝 氏  
清水長金属工業株式会社 代表取締役社長 山本 剛史 氏  
ファシリテーター：キャスター・ジャーナリスト 竹内 弘一 氏

**竹内** 両社は2022（令和4）年6月に開催されたオスカー認定企業による展示交流会「オスカー企業コラボフェア」をきっかけに、それぞれの強み・技術を活かしたコラボレーションに取り組みられました。



**坂** 日本の産業用の電気料金は先進国の中でも高い水準で、企業の負担となっています。本日は、この課題解決に向けて

私たちが提案した「異次元の節電」についてご説明させていただきます。弊社では、手のひらに載る極小型、省エネ、図書館内と同等の低騒音を実現したコンプレッサーを開発・販売しています。この小型化と静音化は、空気を圧縮するスクロールと呼ばれる部品に採用した独自構造によるものです。



**山本** スクロールの表面処理加工の精度は、コンプレッサーの性能に大きく影響します。各種金属のめっき・表面処理を行う弊社が量産化に成功した特殊ニッケルめっきを活用することで、



従来は±50μmだった塗装表面の厚みの精度を±5μm以内に抑えることに成功しました。なめらかさと耐久性も兼ね備えた弊社の技術とのマッチングにより、省電力・省スペースの小型静音コンプレッサーが完成しました。

**坂** 一般的な製造業の工場における電気使用量のうち、20～25%を占めるのがコンプレッサーの電力と言われます。既存の大型コンプレッサーの半数を弊社のコンプレッサーに置き換えれば10%削減でき、単純計算で、日本全体の消費電力を5%削減することが可能となります。

**竹内** 連携先を見つけるポイントを教えてくださいませんか？

**坂** 連携の始まりは互いの事業内容を知ったことです。本日のような機会に交流することで、相手探しのハードルは下がるかと思います。

**山本** 「コラボフェア」壇上での自己紹介の中で1分程度、新しいメッキ技術に触れました。それを聞かれた坂さんがすぐにお声がけくださり、感謝しています。普段からつながりを大事にして情報を交換し合うこと、坂さんのように行動されることが、大事なのではないかと感じています。

#### オスカー新入会員紹介

2023（令和5）年8月に新たにオスカー認定を受けた5社が紹介されました。ステンレス等の鋼材を切断加工する卸商社の川十株式会社、精密板金加工をはじめとする金属加工業を営む株式会社西田製作所、金属製品の専門商社として締結部品を提供する松田金属工業株式会社、節句人形や和雑貨全般の企画、製造、販売を行う株式会社リュウコドウ、洋菓子製造販売やレストラン運営を手がける株式会社ロマンライフの代表が登壇し、事業概要や強みについて説明がなされました。



#### 展示交流会

54社が出展する展示交流会が実施されました。認定企業や京都の成長に貢献している企業・産業支援機関のブースが並び、それぞれにおいて名刺交換をしたり、質問したり、製品を体験したりと、交流を広げ深める姿が見られました。抱えている課題や、その解決のために求めているものについて話し込む様子も見られ、新たな連携の可能性を広げる貴重な出会いの場となりました。



#### 懇親会

第2部の懇親会では、京都市長の門川大作氏から「知恵が融合することで何が起こるのかワクワクしています。京都のあらゆる強みを活かすことで経済、市民生活、未来がますます明るくなると信じています」との期待が述べられ、登壇者からは、革新的な交流・連携の加速や、それらの創出につながる取組の継続に向けた決意が聞かれました。会場全体で「今日をその起点としよう」との思いが共有され、盛会のうちに終えることができました。また、京都市オスカークラブに対して京都市自治記念式典「未来の京都まちづくり推進表彰」が行われました。



## オンリーワン技術・ノウハウをもつ中小企業の海外進出をサポート

～京都市グローバル・ニッチ・トップ企業創出プロジェクト～

「京都市グローバル・ニッチ・トップ企業創出プロジェクト」は、京都市内の中小企業の海外展開を支援するため、2023（令和5）年度から、新たにスタートしました。

近年、急速に進展する人口減少、またコロナ禍による産業構造や市場の変化に直面し、海外市場に活路を見出そうとするベンチャー企業や中小企業が増加しており、こうした企業を支援する必要性が高まっています。

一方で、高度な技術力を有するとともに、海外展開に向けた経営者マインドが高い企業が数多くあるにも関わらず、従業員のノウハウやネットワーク、資金不足等の課題により、海外展開の検討・計画の策定や製品開発等ができていない企業が存在しており、こうした地域の中小、ベンチャー企業が円滑に海外へ進出できるよう、京都市とASTEMが主体となり取組を進めています。

2023（令和5）年度は、応募のあった64の中小企業や企業間連携グループの中から13のプロジェクトを採択。独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）京都や独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿本部、地方独立行政法人京都市産業技術研究所と連携しながら、コーディネータによる伴走支援を行っています。

— 2023（令和5）年度採択事業一覧 —

事業者名	事業概要
株式会社イクスフォレスト セラビューティクス	海外製薬企業に対する創薬開発支援事業の販路拡大
五和工業株式会社	低湿度環境を制御できるドライエアースタック装置グローブボックスやドライルーム設備の海外向け製品開発及び販路拡大
株式会社光響	大型ビームプロファイラ製品（レーザー関連装置）の海外向け製品開発及び販路拡大
株式会社COGNANO	標的分子探索技術を活用した新規マーカーの開発、診断薬、治療薬の創薬メーカーとの共同開発及び販路拡大
株式会社坂ノ途中	トレーサビリティが担保されかつ環境配慮の行き届いたスペシャルティコーヒーの海外への販路拡大
株式会社松栄堂	海外向けお香新商品の販路拡大
日本蚕毛染色株式会社	ウォッシュナブルなシルク素材・ウール素材の海外向け製品開発及び海外への販路拡大
株式会社八代目儀兵衛	良食味米・寿司専用米・米加工食品の海外向け製品開発及び海外への販路拡大
株式会社プラズマイオンアシスト	FCV（燃料電池自動車）向け燃料電池用金属セパレータの技術ライセンスに伴う海外との共同開発による販路拡大
マイキャン・テクノロジーズ 株式会社	再生医療技術を使用した研究用・医療用血球細胞の研究開発及び海外への販路拡大
株式会社メガトレード	独自の外観検査技術（光・ソフトウェア）を応用した印刷検査の装置およびシステムの海外への販路拡大
山田繊維株式会社	環境負荷の低い風呂敷の海外向け製品開発及び販路拡大
有限会社フクオカ機業 京都樹脂株式会社 ※グループ申請	カーボンファイバー繊維とアクリル樹脂材を組合せた海外向け高級家具の開発及び海外への販路拡大



地域産業活性化本部 企業成長支援部  
コーディネータ 松田 篤郎（左）  
コーディネータ 木谷 重幸（右）

### 成果事例1 山田繊維株式会社 様

- ◆ 本プロジェクトの一環で、海外プロモーションに取り組んだところ、クリスマスシーズンを前に「ふるしき」がゴミを出さないギフトラッピングとして、ニューヨークタイムズの記事に取り上げられました。
- ◆ 紙面では、日本において、何世紀も前から再利用可能なラッピング「ふるしき」を芸術的な形で実践してきたと評価をいただいています。
- ◆ 本記事の公開直後からアメリカを中心に多くのご注文を頂き本格的な海外展開に向けて弾みがつきました。



### 成果事例2 株式会社COGNANO 様

- ◆ 当社の「標的分子探索技術を活用した欧米創薬メーカーとの共同開発」をテーマに、本事業を採択いただきました。
- ◆ 今回の事業は、欧州諸国の多くの大学やバイオテック企業との共同研究体制構築や技術提携のきっかけづくりとなりました。
- ◆ 本成果を生かし、今後は欧米の創薬メーカーにアプローチして、ライセンスや販売を計画しています。



Bio International  
展示会ブース

## 輸送機器・移動体のサイバーセキュリティセミナー ～IoTセキュリティの重要性を再確認する“オンライン実習”の試み～

組み込み機器のIoT化が進む現在、インターネットからの組み込み機器への不正侵入の検知と侵入防御が必須となっています。ASTEMでは2023（令和5）年度、セキュリティ対策の重要性の啓発を目的とし、新たな試みとなる技術者対象のオンライン実習を組み込んだ、全4回の「輸送機器・移動体のサイバーセキュリティセミナー」を実施しています。



ASTEM 研究開発本部 ICT研究開発部  
(右から) 神原 弘之、渡部 進一、  
吉田 信明

### IoT時代におけるリスクとサイバーセキュリティの重要性を再確認する機会としてセミナーを開催

デジタルカメラから自動車まで、私たちの身の回りの多くの機器にはソフトウェアが組み込まれ、様々な機能が実現されています。このような組み込み機器は、従来、インターネットに接続されていないものが大半でした。しかし近年、このような機器をインターネットに接続することでより高いサービスや価値を産み出す、IoT (Internet of Things、「モノ」のインターネット) 化が進んでいます。ここで大きな問題となるのが、セキュリティです。インターネットにつながるということは、家に例えると、玄関などの入り口に世界中から24時間・365日、アクセスが可能になるということ。いかに鍵をかけるのか、つまり、セキュリティ対策をいかに行うかが重要です。

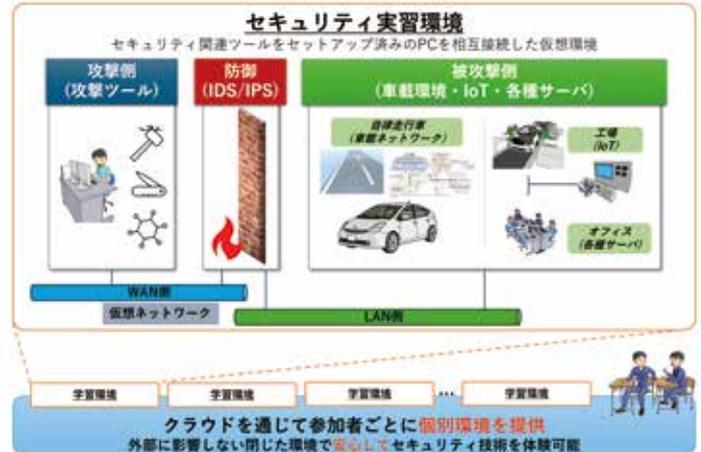
世界を見渡すと、2008（平成20）年、トルコでウェブカメラを侵入経路とする石油パイプラインの爆発事故が起きた頃から、サイバー攻撃が意識されています。こうした状況は、日本も例外ではありません。病院をはじめ様々な施設がサイバー攻撃の対象となってきました。工場のFAネットワーク機器がマルウェアに感染し、稼働が停止するという事態が多発しており、企業に金銭要求を行うサイバー犯罪の報告数も年々増えています。身近なところでは、自動車の制御システムへの侵入の可能性も実証され、様々な対策がなされつつあります。

このようなセキュリティリスクへの危機感と、セキュリティ対策の重要性を再確認する機会として、組み込み機器の開発や社内・工場内のネットワークの管理・運営に携わる方を対象とし、「輸送機器・移動体のサイバーセキュリティセミナー」を開催しました。なお、本事業は、競輪の補助を受けて実施しました。

### クラウド上に構築した環境で「攻撃する方法」と「防御する方法」を体験するオンライン実習を導入

まず、第1回として、2023（令和5）年12月に実施した、「輸送機器・移動体のサイバーセキュリティ確保に必要とされる社会人向けセミナー」では、立命館大学情報理工学部教授であり、同大学IoTセキュリティ研究センターのセンター長を務める、上原哲太郎氏にIoTセキュリティの現状や課題、ソフトウェアの製作・導入において求められる考え方などについてご講演いただきました。その中で、上原教授は「攻撃者が進化し続けるIoTの世界では、ソフトウェアの進化とそのアップデートが重要」と指摘されました。

続いて、2024（令和6）年の1月から3回にわたり、自動車



の車載ネットワーク、工場のFAネットワーク、中小企業のオフィスネットワークを対象としたセミナーを順に実施しています。

今回のセミナーの最大の特徴は、第2回以降のオンライン実習にあります。攻撃者がどのように攻撃を行うのかを知ることこそが、セキュリティへの理解を深める近道になるからです。そこで、このセミナーでは、クラウド上に構築したテスト環境で、「攻撃する方法」と「防御する方法」を実際に体験していただきます。例えば第2回で行ったのは、自動車のネットワークに侵入し、自律走行車シミュレータの動きを妨害するというもの。以降、第3回・第4回では、製造ラインのネットワーク、侵入検知システム (IDS) と侵入防御システム (IPS) による侵入・攻撃への対処を体験していただきます。クラウドの特徴を活かし、参加者ごとに個別の実習環境を提供することで、各自が様々な手法を自由に試みられるようにしました。

### サイバーセキュリティ人材育成の スタートポイントとなることを目指して

今回のセミナーから見えてきたセキュリティ対策に関わるニーズに沿って、今後の展開についても検討していきます。特に、セキュリティ対策のレクチャーを担う技術者とのネットワークを構築することも視野に入れ、サイバーセキュリティに対応できる人材育成の一助となることを目指します。

実践的なオンライン実習は、ASTEMにおける新たな試みでもありました。近年、社会の様々な場面において、デジタル活用による変革が“DX”として進められています。本事業のようなオンライン実習は、時間・場所を問わない実践的な学びを実現します。ASTEMでは、産業でのメタバース活用の検討なども進めています。これらと組み合わせることで、技術者の学びのDXにも取り組んでいきたいと考えています。

# ASTEMの認定制度における企業支援 [認定企業のご紹介]

ASTEMでは、京都の産業のさらなる発展を目指して、企業の成長段階や事業の特性に応じた3つの認定制度を実施しています。各制度で認定された企業には、専門家やコーディネータ等により、各企業の特徴に合わせた体系的かつ継続的な支援を実施しています。

## 京都市ベンチャー企業目利き委員会

# 目利き Aランク認定

京都市ベンチャー企業目利き委員会は、1997（平成9）年に次代の京都経済をリードするベンチャー企業を発掘、育成するために設置、京都を代表する経営者や学識経験者、専門家で構成され、事業プランの新規性、事業成立性、市場性等を評価しています。これまでに、将来の成長が有望とされる技術力・サービス力を持つ157社の事業プランをAランク認定し、競争的資金申請支援、専門家派遣等の支援を実施しています。

## 対象

新しい事業への挑戦を考えておられ、これから創業される、または企業設立後（開業も含む）概ね10年未満の個人、ベンチャー・中小企業（みなし大企業を除く）の方で全国から受け付けます。

※新規性が高ければ、業種・業態は問いません。

※審査は年1回（3月頃）行います。

### [こんなプランを目利きします!]

- 革新的な技術に基づく新事業
- 新技術を活用して従来のシステムを画期的に変革
- 既存技術を融合して新事業を創出
- 独自性の高いビジネスモデル
- 事業システムを独創的なアイデアで変革

●詳しくは、京都市ベンチャー企業目利き委員会WEBサイトをご覧ください。

<https://www.astem.or.jp/smes-venture-mekiki/>



## 委員

委員長	辻 理 サムコ株式会社 代表取締役会長（CEO）
副委員長	佐和 隆光 京都大学名誉教授
委員	上村多恵子 京南倉庫株式会社 代表取締役社長
委員	齋藤 茂 株式会社トーセ 代表取締役会長（CEO）
委員	仲尾 功一 タカラバイオ株式会社 代表取締役社長
委員	原 良憲 京都大学 経営管理大学院 教授
委員	西本 清一 公益財団法人京都高度技術研究所 理事長

（敬称略）

## 評価ポイント

実施体制 経営者・経営陣など

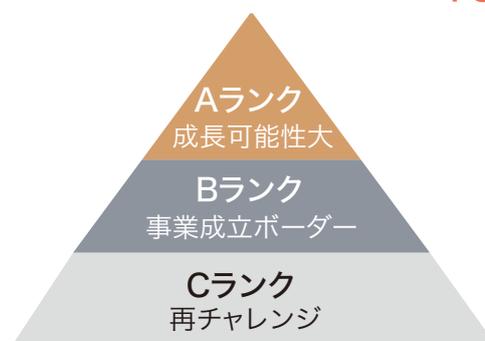
技術  
ビジネスモデル

新規性、模倣困難性、独自性、  
競争優位性、商用化可能性、  
事業成立性、市場規模、ニーズの強さ

## 評価結果

● これまでのAランク認定件数

157件



## 2022(令和4)年度 Aランク認定企業のご紹介

## 株式会社エネコートテクノロジーズ

URL : <https://enecoat.com/>

テーマ ペロブスカイト太陽電池の開発および販売

## 認定事業概要

暗い室内から照度が強い宇宙まで幅広い照度環境で発電できることに加え、設置が困難な壁面や道路の法面など様々な場所でも設置可能なペロブスカイト太陽電池を開発し販売する。

**特徴**：高照度でも、低照度でも発電効率が高く、薄くて軽いペロブスカイト太陽電池の開発において、課題となっている大面積化と耐久性の向上を進め、2025(令和7)年までの商用生産を行う。太陽電池日本市場は2035(令和17)年度には1,500億円以上、世界市場では10兆円以上といわれているが、その多くを中国企業が占めている。今後は、経済安全保障の観点から日本国内での生産が増加するとみられており、将来的にはその数%のシェアを占有することを計画している。

代表取締役 加藤 尚哉

所在地：〒613-0031 京都府久世郡久御山町佐古外屋敷43番地の1



## 株式会社エルシオ

URL : <https://elcyo.com/>

テーマ 次世代オートフォーカス・アイウェア「Elcyo Glasses」の開発および販売

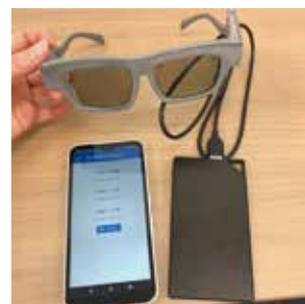
## 認定事業概要

2019(平成31)年に創業した大阪大学発スタートアップ。液晶レンズの光の波面制御のテクノロジーによって、視力低下、眼精疲労等の眼の課題を解決する新しい度数可変眼鏡の開発・製造販売を行う。このレンズを搭載した眼鏡・スマートグラス・XRアイウェアは、人の視力、視界の最適化によって、毎日をより快適に便利に過ごせるだけでなく、デジタルデバイスの使用で悪化する視力や眼精疲労にも対応し、老視、近視、小児弱視などを解消する。

**特徴**：ウェアラブルに最適な度数可変レンズを使用。

大口径、広範囲度数可変域、軽量、薄型の特長を持つフレネル型液晶レンズを搭載したアイウェアは、従来の眼鏡では成しえないリアルタイムでの顧客の視力調整ニーズや視野の不快感の解消を実現する。

代表取締役 李 薺里

所在地：〒615-8245 京都市西京区御陵大原1番地39  
京大桂ベンチャープラザ南館2204号

## 株式会社レナートサイエンス

URL : <https://www.renatoscience.com/index.html>

テーマ 人工脂肪を活用した乳房再建の実現

## 認定事業概要

乳がん切除後乳房再建は、自家複合組織移植(患者の筋肉・脂肪組織を乳房に移植)、シリコンインプラント埋入のいずれかで行われている。自家組織採取では手術侵襲等、インプラントでは悪性リンパ腫等の発生が課題である。そこで数年かけて生体内で分解吸収され自家脂肪に置換される低侵襲・整容的にも優れた人工脂肪(ポリ乳酸+コラーゲン)を乳房再建・豊胸手術市場で世界初の人工脂肪の新規医療機器として、実用化を目指す。

**特徴**：人工脂肪は、コラーゲンスポンジ(コラーゲン使用人工皮膚として医療機器承認済)をpoly-L-lactic acid(PLLA)縫合糸(骨接合材として承認済)で作製したメッシュ内に挿入した二重構造を持つ生体吸収材料である。

代表取締役 長谷川 雪憲

所在地：〒606-8307 京都市左京区吉田上安達町17番地 地域経済牽引拠点2階





# オスカー 認定制度

## 元気な中小企業をもっと元気に！

優れた技術や製品、サービスを持つ中小企業から、新商品の開発や経営管理の効率化、積極的な販路拡大等を通じて経営革新を図るための事業計画（パワーアッププラン）を募集・審査し、企業価値の向上により持続的に成長することが期待される中小企業をオスカー認定します。

認定企業には、当財団のコーディネータ等によるサポートや専門家の派遣、京都市等による支援施策・優遇制度を活用することができ、計画の実現に向けた総合的な支援を実施します。

### 審査委員

委員長	佐藤 研司 龍谷大学 名誉教授 マーケティング・サイエンス 代表
委員	石田 洋也 京都市産業・文化融合戦略監/産業観光局長
委員	坂田 岳史 一般社団法人京都府中小企業診断協会 会長
委員	武田 一平 ニチコン株式会社 代表取締役会長 公益社団法人京都工業会 副会長
委員	西本 清一 公益財団法人京都高度技術研究所 理事長 地方独立行政法人京都市産業技術研究所 理事長 京都大学 名誉教授
委員	宮崎真里子 宮崎木材工業株式会社 代表取締役社長 京都市小売商総連合会 副会長
委員	森本 一成 京都工芸繊維大学 名誉教授
委員	吉田 忠嗣 吉忠株式会社 代表取締役社長

(敬称略 五十音順)

◆詳しくは、WEBサイトをご覧ください。  
<https://www.astem.or.jp/smes/oscar>



### 対象

- ・京都市内に本店、支店、営業所、工場、その他事業所を有する中小企業（みなし大企業を除く）
- ・創業または法人設立から10年以上経過していること

### 認定企業

## 233社

### 審査・評価

一次審査（書類審査）及び認定審査（「オスカー認定審査委員会」におけるプレゼンテーション審査）の二段階の審査を行います。

下記の視点から審査を行い、経営革新による企業価値の創出・向上が図られ、持続的に成長が期待される企業について、「オスカー認定審査委員会」がオスカー認定を行います。

#### 【審査の視点】

- 企業（財務の健全性、企業の強み）
- 経営者（姿勢、意欲）
- 事業計画（収益性、独自性、優位性、成長性）

## 2023(令和5)年度 オスカー認定企業紹介

### 川十 株式会社

代表取締役社長 亥子 勝高

京都市伏見区北寝小屋町49

TEL 075-611-8184

URL <http://www.kawajyu.jp/>

事業内容▷非鉄金属材料の精密・切断加工販売

#### テーマ

デジタルツインを駆使した生産管理システムを導入し、DXによる業界最速の多品種少量・超短納期受注生産を実現する。

#### ▶事業計画の内容・特徴

同社は、ステンレス、アルミ等あらゆる鋼材を切断加工する卸商社である。京都を中心に全国に約300社の取引先があり、受注に応じて年間約10万点以上の供給量をほこる。今回、多品種少量・超短納期受注生産という同社の強みを強化すべく、「生産状況の見える化」とシミュレーションによる「生産計画の最適化」をデジタルツイン技術の導入により実現し、アナログ作業をDXに変える「製造大変革」を成功させ、新たなビジネスモデルの構築で業界をリードする。



## 株式会社 西田製作所

代表取締役 民 理恵

京都市伏見区久我西出町1-15

TEL 075-925-1150

URL <https://www.nishida-factory.co.jp/>

事業内容▷精密板金・ファイバーレーザー加工・フレーム製作・製缶・大型五面加工

### テーマ

産業用ロボット筐体部品の超短納期対応に向けたレーザー加工技術の研究開発及び各部署の独立性によるロスのない生産体制の確立

#### ▶事業計画の内容・特徴

同社は1986（昭和61）年の創業以来、金属加工業務を行っており、業界では一般的に分業されている精密板金加工、製缶加工、マシニング加工など全てを、一貫生産出来る体制を強みとしている。

今回、産業用ロボット筐体等の需要拡大に伴う短納期部品の受注増加に対応するため、レーザー加工能力を独自の技術で進化させ、従来のマシニング加工をレーザー加工に置き換えることで事業内容の拡大を図る。



## 松田金属工業 株式会社

代表取締役社長 松田 良信

京都市中京区壬生下溝町35番地

TEL 075-311-6311

URL <https://mtzd-hp.jp/>

事業内容▷ねじ・締結部品・金属加工品の販売・卸売

### テーマ

独自設計されたKintoneアプリケーションによる情報共有の強化及び、当社基幹システムとKintone間データ連携によるリアルタイム経営

#### ▶事業計画の内容・特徴

同社は、金属製品の専門商社として、ねじやボルト等の締結部品を様々な企業に提供しており、特注で作るオーダーメイド品（特殊加工品）への確実な対応が強みである。今回、アプリ開発プラットフォーム「kintone」を利用して50以上のアプリを独自開発し、それらを同社の基幹システムと繋ぎデータ連携をすることで、事業活動の効率化及び品質・納期等のサービス面の向上による高付加価値化を実現する。



## 株式会社 リュウコドウ

代表取締役 藤井 孝二

京都市上京区今出川御前西入27番地

TEL 075-466-4099

URL <https://www.kyoto-ryukodo.com/>

事業内容▷ちりめん・陶器・陶磁器・和紙などの素材を使用した、節句人形や和雑貨全般の企画、製造・販売

### テーマ

愛らしく癒される、インテリア雑貨感覚のペット用仏具などのエンディング商品の開発と製造販売

#### ▶事業計画の内容・特徴

同社は、ちりめん、陶磁器、和紙、ガラスなどの素材を使用した節句人形や和雑貨全般の企画、製造、販売を行っており、オリジナリティあふれる商品開発力と熟練職人の手作業による製造技術力が強みである。

今回、コロナ禍によるライフスタイルの変化、ペット市場の拡大、ペットを含めたエンディング産業の成長を見据え、インテリア雑貨感覚の愛らしく癒されるペット用エンディング商品（仏具等）の開発と製造販売により、事業拡大を目指す。



## 株式会社 ロマンライフ

代表取締役社長 兼 COO 河内 優太郎

京都市山科区大塚北溝町30番地

TEL 075-593-6464

URL <https://www.romanlife.co.jp/>

事業内容▷洋菓子の製造・販売/レストラン運営、食品の販売

### テーマ

「郊外型カフェ店舗」の展開による新規サービスの提供と新商品の製造販売

#### ▶事業計画の内容・特徴

同社は、洋菓子製造販売の「マールブランシュ事業部」、レストラン運営・食品部門の「侘家事業部」の2部門で事業展開している。

今回、ブランドコンセプトである「京都クオリティ」を体現した地域で、生活密着型の郊外型カフェ店舗を新たに展開し、自家需要商品の製造販売、非日常的な空間での「トキ消費」の提供、会員向けイベント等を行い、何世代にもわたる生涯顧客を増やし、地元京都の洋菓子No.1店として愛され続けることを目指す。





# これからの 1000年を紡ぐ 企業認定

## ビジネスをとおして、 持続可能な未来の在り方を考える

社会的課題をビジネスで解決することや、社会的課題を生まない新しい商品やサービス・システムを生み出すことで持続可能な社会の構築に貢献し、ソーシャルイノベーションに取り組む企業を認定します。認定により、企業の目指す未来に向けた成長と発展をサポートし、1000年先に続く持続可能な社会を形作っていくとする企業を後押しします。また、この認定制度を通じて、京都に社会的企業や組織、関心のある人々が集い、自立し、担い合う、そのような社会基盤を創り上げていくことを目指しています。今回紹介する6社は、イノベーション部門での認定企業です。

## 第7回 認定企業のご紹介

### 株式会社Casie

代表：藤本 翔 | SHO FUJIMOTO

〒600-8070 京都市下京区俵屋町218

URL : <https://casie.jp/>

MAIL : [support@casie.jp](mailto:support@casie.jp)

#### 表現者とともに未来の市場を切り拓く

手頃な価格で誰でも気軽に絵画をレンタルできるアートのサブスクリプションサービスを提供。ユーザーが支払う毎月の利用金額の一部が、アーティストに報酬として還元され、アーティストの支援・国内の文化芸術活動にも貢献する。

#### 事業を通じて実現したい未来

作品流通の機会に恵まれないアーティストたちと、アートの



ある暮らしを始めてみたいけれど何から手をつければいいのか分からないユーザーをマッチングする新しいアートの流通エンジンを提供する。アーティストが創作活動だけで生計を立てられるようになり、同時にユーザーの美術鑑賞力も向上する未来を目指す。

### 対象

- ・ 起業後3年以上の個人又は団体で、京都市内に事業所を有する、または年度中に京都市内に事業所等を開設する予定がある
- ・ ビジネスによって社会的課題の解決を行っている、もしくは社会的課題を生まないビジネスを目指している
- ・ ビジネスとして収益が成り立っている
- ・ 全組織的な取組として、マルチステークホルダー（消費者、従業員、株主、取引先、地域社会、地球環境など）に対し、配慮した経営を行っている
- ・ 社会に対して大きなインパクトのある取組になっている

これまでの認定件数 **34件**

### 評価ポイント

持続可能な社会を紡ぐ企業に必要な、次の3つの視点から評価を行います。

- ①経営理念の実践
- ②マルチステークホルダーへの配慮
- ③ソーシャルイノベーションの創出

◆詳しくは、京都市ソーシャルイノベーション研究所 (SILK)WEBサイトをご覧ください。

<https://social-innovation.kyoto.jp/>



### Curelabo株式会社

代表：山本 直人 | NAOTO YAMAMOTO

〒606-8307 京都市左京区吉田上阿達町17 [京都事業所]

URL : <https://curelabo.co.jp/>

MAIL : [info@curelabo.co.jp](mailto:info@curelabo.co.jp)

#### 地球に優しいものづくりで、 サーキュラーエコノミーを実現する

サトウキビバガスからジーンズ等のサステナブル衣料品や日用品を製造販売。また、産学連携により、飲料・食品等の未利用残渣を同じ製造方法を用いて、幅広いアップサイクル事業を展開する。

#### 事業を通じて実現したい未来

バガスをはじめとした未利用資源を活用した素材を開発・製造することによって、サステナブル素材を供給する。



独自技術を活用し、メーカーと共同でサステナブル衣料の素材開発およびエシカルなサプライチェーンを構築し、循環型のものづくりを目指す。

## 株式会社きゅうべえ

代表：谷口 創太 | SOTA TANIGUCHI

〒605-0992 京都市東山区下堀詰町246 テイブンビル2F

URL : <https://qbei.co.jp/>

MAIL : [bicycle@qbei.co.jp](mailto:bicycle@qbei.co.jp)

### 自転車を通じてお客様の「いつも」を守り、地域の「これから」を創る

自転車販売（実店舗・EC）、シェアサイクル運営、サイクル・ツーリズムなどの地域活性化事業を展開し、自転車での移動を快適かつ魅力的にする事業で、脱炭素社会やまちづくりに貢献する。

#### 事業を通じて実現したい未来

自転車が活用される豊かな社会を目指していく。自転車には「短距離交通」と「レジャー・スポーツ」の2つの側面があるが、短距離交通として



は、シェアサイクルのインフラの構築で利便性や回遊性の向上、レジャー・スポーツの面では、地域活性化に加え、日常的に自転車に乗る人が増えることで健康寿命の延伸に寄与したい。

## 京都デニム（有限会社豊明）

代表：桑山 豊章 | TOYOAKI KUWAYAMA

〒600-8208 京都市下京区小稲荷町79-3-104

URL : <https://kyoto-denim.com/>

MAIL : [kyoto@kyoto-denim.jp](mailto:kyoto@kyoto-denim.jp)

### 「伝統工芸×サステナブル」を実現するエコシステムをつくる

着物の染色技術「手描き友禅染め」をデニム衣類に応用し、衣類に新しい価値を創造。顧客が所有するデニムに手描き友禅染めを施すサービスを提供し、所有物への愛着を高め、廃棄物を減らす取組を展開する。

#### 事業を通じて実現したい未来

コミュニティを拡大することで、手描き友禅を日常生活に取り入れるという選択肢を広げ、京都が受け



継いできた技術の継承の新たな形をつくっていく。さらに、使い捨てや新品購入だけでない選択肢が一般的になるような未来にしていきたい。

## 株式会社便利堂

代表：鈴木 巧 | TAKUMI SUZUKI

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町302

URL : <https://www.benrido.co.jp/>

MAIL : [info@benrido.co.jp](mailto:info@benrido.co.jp)

### 今ある美しいものを美しく再現し、現代の美しいものを未来へつなげる

1887年創業以来、美術・文化財に特化した写真撮影・複製制作・出版・商品企画販売。特に複製制作には、コロタイプと呼ばれる精巧な写真印刷技法を用い、法隆寺金堂壁画などの文化財複製を制作し、貴重な文化財の保護・研究・公開に取り組む。

#### 事業を通じて実現したい未来

文化財の精密な複製製作に使用してきたコロタイプの技術を、現代のアート作品にも活用し、今後、文化財になり得る作品の



未来への保存にも貢献する。コロタイプという「古くて新しい技術」を護り伝え、国内外での認知度を上げ、コロタイプの世界文化遺産への登録を目指す。

## 合同会社まいまい

代表：以倉 敬之 | TAKAYUKI IKURA

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町29

（一財）京都ユースホテル協会内

URL : <https://www.maimai-kyoto.jp/>

MAIL : [mail@maimai-kyoto.jp](mailto:mail@maimai-kyoto.jp)

### 大量消費・一極集中のモノ型コト型観光から多様なヒトが主役の観光へ

600人を超えるバラエティ豊かなガイドとともに、年間約900コースのまち歩きツアーを開催。観光の選択肢を増やすことで、一部地域のオーバーツーリズムなどの解決にも貢献する。

#### 事業を通じて実現したい未来

まちの最大の魅力は「モノ」や「コト」ではなく「ヒト」。何気ないまちの魅力をガイド・参加者・スタッフが楽しみながら、一緒になってツ



アーをつくりあげる。まちの人は当たり前と思っていた地域や日常の価値に気づき、参加者は新たな視点を得ることで日常が豊かになるツアーを目指す。

# 賛助会員紹介

- 株式会社Eサーモジェンテック
- AC Biode株式会社
- 株式会社エマオス京都
- 大阪ガス株式会社
- オムロン株式会社
- 株式会社片岡製作所
- 公益財団法人九州先端科学技術研究所
- 株式会社京信システムサービス
- 公益財団法人京都産業21
- 京都樹脂精工株式会社
- 株式会社京都ソフトウェアリサーチ
- 一般社団法人京都発明協会
- 京都リサーチパーク株式会社
- 株式会社ゴビ
- サムコ株式会社
- 株式会社島津製作所
- 株式会社写真化学
- 株式会社SCREENホールディングス
- 進工業株式会社
- 株式会社ツー・ナイン・ジャパン
- 株式会社 DTS WEST
- TOWA株式会社
- 株式会社特殊高所技術
- 株式会社トミナガ
- 株式会社とめ研究所
- 日本新薬株式会社
- 株式会社日本電算機標準
- 株式会社ピーグル
- 株式会社ファーマフーズ
- FES株式会社
- 株式会社FUKUDA
- 福田金属箔粉工業株式会社
- 株式会社堀場エステック
- 株式会社堀場製作所
- 村田機械株式会社
- 株式会社村田製作所
- ローム株式会社
- 和研薬株式会社
- 和晃技研株式会社

※2024(令和6)年3月1日現在  
[五十音順]

公益財団法人京都高度技術研究所では、地域産業の発展と市民生活の向上を目指す本財団の目的に賛同・支援いただける賛助会員を募集しています。詳しくは、ASTEM総務部までお問合せください。

公益財団法人京都高度技術研究所はプライバシーマークを取得しております。

プライバシーマーク制度とは、事業主が個人情報の取扱いを適切に行う体制等を整備していることを評価し、その証として“プライバシーマーク”の使用を認める制度です。

当財団の支援企業様からも、個人情報を含む業務も安心して依頼できるという声を頂戴しております。



## 公益財団法人京都高度技術研究所

〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134番地  
TEL.075-315-3625(代) FAX.075-315-3614  
URL <https://www.astem.or.jp/>  
E-MAIL [info@astem.or.jp](mailto:info@astem.or.jp)

**ASTEM NEWS** 第86号 2024(令和6)年3月発行  
発行/公益財団法人京都高度技術研究所